

協働 国土交通省の進める「ツルの里づくり」

～湿地環境とツルの越冬環境の再生・創出～

当会と協働して「ツルの里づくり」に取り組んでいる国土交通省中村河川国道事務所は、平成18年度から平成26年度にかけて「四万十川自然再生事業」で中筋川の洪水敷を切り下げて、ツルが越冬するためのえさ場やねぐらにもなる湿地を整備し、その効果が出始めています。

整備 中筋川の中に2つの湿地を再生



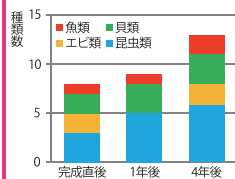
平成19年度完成



平成26年度完成

効果① ツルが越冬!

中山箇所でツルの餌となる生き物の種類が増え、平成25年度にはマナヅルが越冬しました。



ツル類の餌となる
魚類・底生動物の種類数の変化



越冬した2羽のマナヅル
(手前は一緒に越冬したヒシクイ)

効果② 子どもたちのツルへの関心UP!

2つの湿地でツルの学習をした子どもたちが、今季、ツルを見つけて当会に確認の連絡をくれました。



ツルの自然体験学習会
(当会と中村河川国道事務所との共催)

つるの 雑記帳

平成29年10月3日に総会を開催

会議では、これまでの事業成果とツル類の飛来状況の調査結果を振り返りました。また、「ツル類の飛来地が定まらないため、定着を促す活動をどこで集中的に取り組めばよいかかわからない」、「民間主体の活動であり、資金作りに苦しんでいる。四万十市へ協力を要請していきたい」といった課題を、参加者全員で共有しました。

そして、本年度は、「ツルのえさ場・ねぐらづくり」、「ツルの自然体験学習会」、「四万十つるの里祭り」、「ツルの飛来状況調査」の基本4事業に加え、今後、当会がどのように取り組んでいくかの短期・長期的な計画を検討することが決まりました。



ツルを見る時の

お願い



ツルは非常に警戒心が強い鳥ですので、200～300m離れた場所から双眼鏡などを使って観察して下さい。写真撮影は望遠レンズを使いましょう。

四万十つるの里づくりに関するお問合せ

四万十つるの里づくりの会事務局

〒787-0029 高知県四万十市中村小姓町46 中村商工会議所内
tel: 0880-34-4333 / fax: 0880-34-1451
mail: naka10@cciweb.or.jp

四 万 十



つ る だ よ り

四万十つるの里づくりの会

人と自然の共生する
「ツルの里」をめざして

Vol.23 ●発行日/平成30年1月26日 ●発行/四万十つるの里づくりの会
<http://www.shimanto-tsuru.com>

※本誌掲載のツル類の写真は、長年四万十市に飛来したツル類の保護にご尽力されていた故 澤田佳長先生、当会会員の夕部眞一氏および国土交通省中村河川国道事務所からご提供いただいたものです。

ツル5羽が四万十市で越冬中です!

今季の初確認は例年より遅く平成29年11月18日で、中筋川沿いの水田で採餌中の4羽を確認しました。同月24日には新たに1羽が加わって合計5羽となり、以降毎日確認しています。

5羽は3羽と2羽の2グループに分かれて行動しています。3羽のグループは珍しいナベクロヅル(ナベヅルとクロヅルの雑種)とナベヅルの成鳥、幼鳥で構成され、家族と思われます。2羽のグループは、当初は左羽を負傷したナベヅル1羽だったものに11月24日にナベヅル1羽が合流し、それ以降共に行動しています。

当会はツル類の越冬の定義を「12月から1月にわたり確認され、(12月と1月それぞれの)ひと月の3分の1(10日間)以上の確認があった年」としており、平成30年1月10日時点で5羽を確認しましたので、このほど、「四万十市に5羽が越冬中」と公表しました。

なお、近年の当地における越冬は、平成20年度のナベヅル9羽と平成25年度のマナヅル2羽があり、これに続く記録となります。

ツルは2月から3月頃に北に帰りますが、それまでの間、皆さんの近くで5羽が餌をついばんでいるかもしれません。ツルを見かけたら遠くからそっと見守ってください。



飛翔



中央で羽ばたいているのがナベクロヅル



2羽のナベヅル

当会では、今季も高知野鳥の会や日本野鳥の会高知支部、地元の皆さん、国土交通省中村河川国道事務所などと協力し合って、ツル類の飛来状況を毎日確認しています。